

マザーハウス

たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。

あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

花も、人も、
十人十色。
あなたは
なに色？

移送・出所される方は、必ずご一報ください。

2019

6 月号

- 12 塀の中のたより
- 20 Lovely DAYs
- 20 健康相談窓口
- 22 つぶやき！
- 23 回復プログラム 入門
- 23 行事予定
- 23 お知らせ

- 2 理事長挨拶
- 5 社会の声
- 11 ささきみつおコーナー
- 12 育児日記

表紙：熊本の貴水さん

貴水

理事長挨拶

皆さん、あつという間に半年が過ぎようとしています。ですが、いかがお過ごしでしょうか？

五月下旬に理事会を開催し、法人の役員改選をしました。新体制は次の通りです。理事長・五十嵐弘志、副理事長・原田昇（以下アイウエオ順）理事・五十嵐亜利沙、理事・大山悟神父、理事・風間勇助、理事・北川大介神父、理事・佐々木満男弁護士、理事・平松亮香、理事・藤田薫神父、理事・渡邊泰男神父、監事・吉村英治となりました。事業としては、引き続き、マリアコーヒアの焙煎販売、ラウレンシオ（便利屋業）、フランシスコ（更生支援のための差し入れ代行業）、獄中POSTシリーズ販売、カウンセリング、古本募金を実施します。詳細はホームページをご覧ください。

近況報告

私の知人である社会労務士さんとの連携により、

受刑者の方二名が年金を受給できることになりました。手続きが色々複雑でしたが、諦めずに訴えた結果であると思います。受給額が五十万円以上のため、郵便局での受け取りに本人確認が必要であり、年金手帳と住民票を提出しました。また、受刑者に送金するため、全額を一回では送ることができず、二回に分けての送金となりました。受給が決まり本当に良かったです。社会復帰した時にとても役に立つと思います。但し、誤解があつてはいけませんので言いますが、年金受給の手続きを行うにあたっては、手紙でのやり取り、請求書の提出、書類の作成、現金書留の封筒、送金手数料等は、全て実費で頂くこととなります。お互いが信頼し合うことが大切であると思います。裏切った人間もいますが、そういう人は再び刑務所に戻っていきます。人の善意に対して悪意をもって報いることをせず、さらに、聖書に書いてある、「だれも、悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。お互いの間でも、すべての人に対して、いつも善を行うよう努めなさい」（第一テサロニケ五章十五節）を実践することが大切だと私は思います。悪意に対してだけでなく、善意にさえ悪意をもって報いる人は、孤独になるだけであると思います。年金は、一つの権利として、受刑者であるろうとも、きちんと請求し、頂くべきであると私は思います。受刑者の皆さん、年金のことで困っていたら相談してください。時間はかかりますが、マザーハウスで出来ることを実践していきたいです。年金受給のための銀行口座開設については、個別審査をゆうちよ銀行にお願いし、審査に通れば口座開設となります。その審査のためには、本籍、住民票の住所、

生年月日が必要であり、書面で提出することになります。そのための委任状も必要となるので、まずはご相談ください。但し、実費分の経費及び手数料は請求させて頂きます。そして、時間がかかることをご理解頂きたいです。

五月末に岐阜刑務所を訪れたのですが、残念ながら受刑者との面会ができず、悔しくて仕方ないので、あらゆる関係者に連絡をして苦情を言わせて頂きました。名古屋矯正管区長と面談した次の日であり、納得がいきませんでした。そして、神様に祈りました。その後、午後一番で面会の申し込みをしたら許可が下り、一名の方と二年ぶりに会うことができました。彼は面会中、泣いていました。私を見て手を合わせ、何回も何回も頭を下げていました。正直、申し訳ない気持ちで一杯です。彼が社会復帰できるのは、仮釈放が認められることだけです。マザーハウスを身元引受人として、彼が刑務所側に申請しましたが、許可が下りていないのです。来年四月には、「国連犯罪防止刑事司法会議」（通称、「コングレス」という、国連における刑事関係で一番大きな会議が、日本で開催されます。犯罪防止と刑事司法に関する国連の課題と基準を設定するものとして、一九五五年から五年ごとに開催されてきました（参考：日本弁護士連合会ホームページ）。次回、第十四回コングレスは、二〇二〇年四月二十日から二十七日まで、日本の京都で開催されるということで（日本開催は一九七〇年の第四回以来、五十年ぶりだそうです）、マザーハウスとして出来ることをしていきたいです。当事者として出来ることがあると思うので、色々な人に相談しようと思っています。

先日、弁護士からの依頼で少年との面会をして来ました。以前、会ったことのある少年でした。今回は仲間を誘われて詐欺行為をしてしまい、逮捕されたのです。どうして犯罪に関わってしまったのか？孤独になりたくないのだと思います。仲間とつるむことで、寂しさを回避できます。結局、それで自分を傷付けることになるのですが、後のことは考えられないのだと思います。彼と話をしていて、家族の愛、家庭の愛というものを知らないように感じました。家に自分の居場所が無いのだと思います。これは子どもにとって辛いことです。子どもたちの居場所が無くなってきているのではないかと感じます。これはとても危険な状況だと思います。その後、立て続けに少年事件の相談が弁護士から来ました。この少年も、先輩に言われて逃げるのができず、詐欺行為をして逮捕されました。彼も家族関係が良好ではなく、両親は離婚しており、彼以外の子どもは母親が引き取りましたが、彼だけが父親と一緒に生活をしていました。彼は家出をしており、「仕事をすれば更生できる」と思っているようでした。私はこの考え方は大きな間違いであると思います。仕事より大切なのは、社会に土台をつくることだと思います。自分が困っている時に相談できる相手がいる。自分の居場所がある。そういうことが大切なのではないでしょうか？仕事をしていないことを悪いことのように捉えている人が多いのだと思います。確かに仕事は大切ですが、それ以上に、人との繋がり、社会との繋がりが大切です。生きている、生かされている、繋がっていることだと思えます。その土台がある人は再犯をしないと感じます。何故なら、苦しい時、辛い時、相談

相手がいるからです。「助けて」と言える相手がいれば、踏みとどまるきっかけがあるからです。

受刑者の皆さんへ

受刑者の皆さん、毎回、毎回、言うのも嫌ですが、考えて頂きたいことがあります。フランススコ事業で、「早くしてください」「○○刑務所は○冊しか差し入れできないので、○冊購入した本のうち○冊はマザーハウスで預かって、次回注文した時にそれを一緒に送ってください」などなどの要望を言う方がいますが、全員が同じことを言いだしたらどうなるかを考えて頂きたいです。マザーハウスは預かり場所ではないです。代金さえ払えば、何でもしてもらえ、という考えは大きな誤りです。自分が逆の立場に立つた時、そのことができるのかよく考えて頂きたいです。こちらでもできる限りのことをしていきたいと思っておりますが、度が過ぎることを当たり前のように言ってくるのは、常識的にあり得ないと思います。「お金を払っているのだから黙ってやってください」という考えでしたら、それ相応の料金を要求するきちんとしたサービス会社に頼んでください。社会で一般的に、切手で書籍等の購入ができるのか、よく考えて頂きたいです。通常、そのような方法での購入はできないと思います。

ほとんど収益のない事業を、皆さんの回復や社会復帰支援、そして本を読む楽しさや安らぎのために、赤字でも続けているのです。「マザーハウスは支援団体だから自分たちを支援して当たり前なのだ」と

いう考えはやめて頂きたいです。何のためにこのフランススコ事業をマザーハウスがしているのか、深く考えて頂きたいです。自分たちも当事者として皆さんの状況が分かっているから一生懸命に実施しているのです。

受刑者と文通スタッフの皆さんへ

受刑者の皆さん、マザーハウスの文通スタッフと手紙のやり取りをするにあたって、関係者の身分証は必要ありません。刑務所等に法人の謄本を提出しているからです。この文通は、NPO法人マザーハウスのスタッフとの文通であり、個人の文通ではありません。法人スタッフとの文通です。矯正局にも話を通し、「個人の身分証は必要ない」と矯正局から回答を頂きましたので、刑務所側に説明をしてください。

山の中のジョンさん



受刑者側、文通スタッフ側、双方でルールを守らない方が増えています。MLPの同意書や通知書に書かれているルールをもう一度読んで頂き、守って頂きたいと思います。特に、本気で更生を望んで参加している方、活動を応援して下さっている方にこのようなことを伝えるのは心苦しいですが、たとえ相手への善意であつても、ルールを破っているつもりがなくても、一人の軽い気持ちで、文通参加者全体に影響することがあります。マザーハウスの文通は、刑務所側との信頼で成り立っています。どうかそのことを意識して、ルールを守ってください。文通を超えた支援を依頼したい受刑者の方は、文通スタッフに頼むのではなく、事務局にお手紙をください。文通を超えた支援を個人に行いたい文通スタッフの方は、必ず事務局にご相談ください。MLPは、刑務所側、受刑者、文通スタッフ、それぞれとの信頼関係があつて成り立っており、MLPのルールは、その信頼関係を壊さないために最低限必要なものなのです。MLPのルールを超えたところで行われたことに関しては、トラブル等が生じて、マザーハウスでは対応ができません。

受刑者の皆さん、そして文通スタッフの皆さん、「個人」での「支援」ではなく、「法人」の「文通」であるということを変更して思い出して頂ければ幸いです。文通以外の支援は「遠慮ください。そして、相手の方を一人の人として見て頂きたいです。刑務所で、社会で、実際に顔と顔を合わせて人と話すように、言いつらいことや厳しいことを書く場合でも、心をこめて書いてくだされば幸いです。予想と違つて、簡単に辞めずに向き合つて頂きたいです。

す。特に、文通スタッフの皆さん、いつも皆さんに応援して頂いている立場であり、多くの方がルールを守って下さっていることも知っておりますが、MLPが広がるにつれて、受刑者側も、文通スタッフ側も、MLPの目的や相手の気持ちを無視した言動が増えたので、文通スタッフが足りない状況ですが、あえてこの場を借りて書かせて頂きました。どうかご了承ください。ルールを守らない方がいる分、その対応のために、想定外の出費があつたり、事務局のボランティアスタッフが追われ、必要な仕事を進められなかつたりすることが増えました。文通スタッフの研修会が実施できれば良いのですが、日程や会場など、なかなか調節が難しいのが現状です。また文通スタッフ同士で集まる機会を設けたいと考えております。

大学での講義を通して

大学での講義に行き、学生にアンケートを書いて頂くと、元受刑者の話を初めて聞いた、という学生がほとんどです。どうして、中学、高校で元受刑者の話を聞く機会を設けようと思わないのか、と思います。当事者の話を聞くことで、色々なことを知ることができると思うのです。そして、人を大事にする、愛することの体験がない人はそれが出来ないことや、目の前の人を愛するのが難しいことを知ると思います。多くの人が、受刑者や、受刑者に限らずその他の事情・困難を抱える当事者に関して、自分とは無関係な人たちであり、関わることはないと思つています。そして、自分がそのような立場に立つ可能性も考え

ることがないのだと思います。いつ、自分が被害者・加害者になるか分かりません。自分が逆の立場になつたとき、相手と同じ立場になつたときのことを考えることをしないのだと思います。先日の、川崎の通り魔事件を考えれば良く分かると思います。このような事件を防止するためには何が必要なのか、それを青少年の方たちに考えてほしいと思つています。自分たちの未来のためにも考えてほしいです。犯罪をしていなくても、神の前には皆罪人であるということ、孤独や自己肯定感の欠如があると、人は犯罪というものに走る可能性が高いこと、そして一度落ちたら同じところに戻るのがとても大変であり、もがみ苦しみながら社会で生きていくことになる、ということを知つてほしいです。

私は、今、自分たちにできることを考えながら、活動していきたいです。学生たちとの交わりの中で、勇気と励ましを頂くことが多いです。だから楽しくて仕方ないです。次は、専修大学と早稲田大学での講義があり、國學院大学では、ゼミの学生たちとの交流をさせて頂きます。今から楽しみです。

一兵さん



社会の声

獄中で聖書と出会って

★今年一月に行われた、当事者Kさんと理事長の対談の内容をご紹介します。

Kさん プロフィール

現在四十九歳。

中学校二年生の時に教護院に入ったのをきっかけに、少年鑑別所三回、少年院一回、刑務所六回と、人生の三分の一以上を施設の中で暮らし、現在はマザーハウススタッフの一員としての日々を送っています。刑務所の中でキリストと出逢い、聖書を学び、受け入れることで、今まで歩んできた道は曲がりくねっていたけれども、それは今の自分になる為の一本道であり、主の導きであるということに気がつくきました。今は、週に一度の聖書勉強会や、マザーハウスの中で的交流を通して、自分自身を見つめ直し、

変えようと必死になっています。「何事も、自分が変わるうと思わないことには変わらない」。それを胸に生きています。

祈りの言葉が出てこなかった

五

僕は、留置場にいる時に、クリスチャンの日系ブラジル人の方と出会ったことで、キリスト教に触れるようになり、その後、神の愛の宣教師会という、マザー・テレサの修道会のシスターたちとずっと文通をしました。そして、社会に出るにあたり、私の身元引受人になつてくださったのは、プロテスタントの国際弁護士である、佐々木先生です。社会復帰後は、カトリック教会の森司教から、洗礼と堅信の秘跡を授けて頂きました。今現在は、このカトリック麹町教会(聖イグナチオ教会)が僕の所属教会となっています。

今回は、当法人と受刑中、ずっと付き合いがあつて、社会復帰後は、当法人のスタッフとして共に歩み、共に生きているKさんと、獄中で、自分たちが聖書に出会って、何を学んできたのか、そういったこととお話したいと思います。まず、自分が刑務所に入りたいきさつというか、何回か入られたと思うんですけど、その最初のきっかけというのは何だったのか。

K

元々、中学二年生のとき…十三才のときに、教護院(※現在は「児童自立支援施設」)っていうとこ

ろに入りました。母親が入院したりしていて、父親が、自分の手に負えなくなつたついでに、施設に入れられたわけです。そこで色んな仲間と出会って苦しい思いをしたんですけども、結局そこでは何も分からなかった。ただ、そこで束縛されているついでに、出たとき、自由の身になつたつもりで、好き勝手なことをやって、暴走族まがいのこともやり、車を盗んで十五才で大阪まで行ったり来たりして、そんなことをやっていて、少年院に入れられました。

少年院に入った時に、周りの人たち…十八、十九才の人たちがいて、入れ墨を入れたりヤクザをやったりしている人たちがいました。覚醒剤をやつたとか、楽しい話をされたんです。今思えば、楽しくないですけど、当時の自分にとっては楽しい話をされて、好奇心が湧いてきました。十七才のときに、同級生の彼女と同棲するようになり、十八才で子どもができ、結婚して、子どもが生まれました。その頃…結婚して、嫁が入院しているときって、何か自由な気がして、そのときに、結局…浮気ですよ。浮気をして、何だかんだしているうちに、今度は遊ぶ楽しみを覚えてしまつて。もう家庭を顧みなくなつたんですよ。そのときに薬を始めて、そこで出会ったヤクザの人と意気投合して組織に入り…それから二年後ぐらいですね、そのときは薬じゃなかったんですけど、やんちゃし過ぎて、恐喝、傷害、…たくさんあつたんです。窃盗もあつたし…それらの罪で最初の務めに行きました。

五

最初はどに…??

K M少年刑務所です。

五 M少刑って言えば、K分校（※日本で唯一の、刑務所内の公立中学校）っていう、中学とか高校に行っていない人が訓練として行く場所があつて。で、少年刑務所なので、運動中心のようなところがあつたと思うんですけど、駆け足とか色々…その中で過して、何か学んだことなどはありますか。

K 元々、捕まっつてわざわざ苦しい思いをすることは無いつて思っているんですよ。でも、最初、M少刑に行つたときは、教護院で一緒だったムカつく先輩がいたので、机で引っぱたいて、懲罰に行つて…それは少年院でのつむりのケンカだったので、（懲罰で）革手錠されたりなんて思わなくて、それで懲りて以来、ケンカしていません。そのときに学んだのが、苦しい所に来て、あえて苦しい思いをすることは無いなって。だから最初から職業訓練を受けようと思つて、自動車整備に応募したらすぐに受かつて、一年間、自動車整備の資格を取る勉強をさせてもらいました。

五 今、少年院と刑務所の話がちよつと出ましたが…根本的に少年院っていうのは教育中心で、作文を書かせるとか…だから大体、少年院にいる方っていうのは、作文はピカイチです。文章の構成は上手いんですね。反省文は得意中の得意っていう（笑）。ただ、

刑務所だと教育中心ではなくって、規律が色々あつて、その規律を破つたら、即、取り調べ・懲罰。暴れれば、刑務所用語で言うと、スペシヤルルームっていう…保護房っていうのがあるんですけども、コンクリートに囲まれた四畳くらいの部屋に、二十四時間入れられて…。トイレに行くにしても、一般のトイレじゃなくて…股割れズボンを履くんです。スペシヤルルームに入る人っていうのは、大体、革手錠をかけるられるんですね。片方の手を前で、もう片方の手を後ろで、それぞれ手錠で固定する。だから、トイレに行くときはズボンを下ろせないの、股の部分が割れているんですよ。そのズボンでトイレをする。平成十四年頃に、名古屋刑務所で大きな事件があつて、監獄法が百年ぶりに改正されて、今は両手で前手錠という風になったんですよ。

やはり教護院、少年院、そして刑務所…特に少年刑務所は、やっぱり盛りですから大変ですよ。刑務所になるとまた少しは落ち着きますけれども。自分の中で、何回か繰り返して、最終的には今回、N刑に入りましたけれども…N刑に入った時は覚せい剤で行つたと思うんですけど、その時点で（刑務所には）もう何度か行つていますよね。どうしようと思つていましたか？N刑に入ったときは。

K どうしようというか、もう落ち込んでいました、そのときは。色々、捕まる直前にあつたことで落ち込んでいたので…。最初、捕まった時は、何て言うか、落ち込んでいただけだったけれど、聖書に…というか捕まっつて留置場に入った時に、祈ろうと思つたら祈り

の言葉が出てこなかったんですよ。散々、今まで祈っていたのが。前の時は祈っていたのに、その時は言葉が出て来なくて。「もう聖書を読まなきゃ」と思つて、聖書に立ち返り、読み、で…何て言うのかな…救いをそこに求めたんですね。

五 聖書やお祈りは、どこで出会つたんですか？

K 聖書に出会つたのは、三回目のF刑のときです。それまで外国人と同じ部屋になることが無かつたのが、当時は人数が多かつた分、一緒に雑居に入るようになったんですよ。で、そのとき、彼が毎日聖書を読んでいるのを見て、「それ面白いの？」って聞いたら、「面白いから読んでみな」って勧められたのが最初です。

五 僕もF刑にいたんですけど、F級（※処遇指標（≡刑務所の分類）の二つ。F刑に割り当てられているのは、B級「犯罪傾向の進んでいる者」、F級「日本人と異なる処遇を必要とする外国人」、など）って言うて、外国人が多いんですね。その共同室…俗に言う、雑居房で、外国人の方とそういうお話をして、聖書を読みだした。それで、社会復帰したとき、教会に行こうとか、そういうことは思いましたか？

K そのときはまだ思わなかつたですね。ただ聖書を読んだ、っていうだけで。深くは全然分かっていなかった。

五

それで、何回か（刑務所の入退所を）繰り返して
：N刑に行った時に、祈ろうと思っただけでも、結局、
祈りの言葉が出なかった。

K

はい。それで…今までは、仲間と連絡して、聖書
を入れてもらっていたんです。同じ人だったんですけ
ど、その人は亡くなってしまっただけです。自分が
N刑に入る前に、それで頼めなかったので、官本（※
刑務所に置いてある図書）で借りようと思って、拘
置所で頼んだら、貸してくれました。そこからまた、
旧約聖書、新約聖書を全部読み始めて、N刑に移っ
た時も、また官本でしばらく借りていました。最終
的には、五十嵐さんをお願いして送って頂いた。

五

聖書を読み始めて、例えば個人教誨とか…刑務所
の中では、集合教誨っていうのと個人教誨というの
がありまして、集合教誨っていうのは、牧師先生や
神父様が片側について、もう片側に受刑者が複数人い
て…どちらかというと一方的に牧師先生や神父様が
話すんですね。個人教誨っていうのは、受刑者と牧
師先生もしくは神父様が一对一で面談をして、色ん
なお話が出るんです。ただし、当然、刑務官は立
ち会います。私のときは、岐阜刑は、個人教誨が
大体、七か月に一回しかやらせてもらえなかったん
ですけども、一回やる時は大体一時間くらい粘って
（笑）、「まだ」「まだ」って言って（笑）、牧師先生
と教誨の時間を取りました。N刑は、ちなみに、私

の知っている神父様が教誨師として行かれています
すけれども、教誨は受けられましたか？

K

自分はプロテスタントの教誨師の先生に教わったん
ですけれども（集合教誨で）、その牧師先生は、「も
やもやしないで帰ってほしい」ということで、何でも
質問を聞いてくれたんです。だから、一方的に喋
ることも無かったし、むしろ聖書を読む方が少なく
なっちゃったくらい、みんな質問していました。その時
間の後に、個人教誨をやらせてくれたので、一時間
以上、話が出来ました。その点、恵まれていました。
色々教えてもらって。

五

N刑にいるとき、社会の人との交流というのは…？
過去の仲間でも。相手から手紙が来たとか…。

K

捕まった時点で、さっき言った、嫌なことがあつた
っていうので苦しかったので、もう一切の過去を断つて
決めて…マザーハウスを知った時には、もう誰とも連
絡を取っていないですね。

導きを感じたこと

五

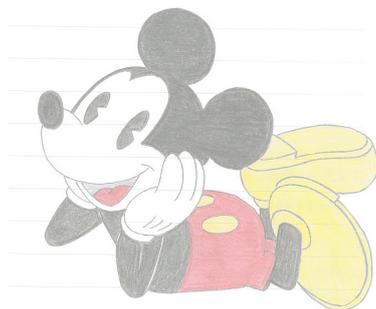
マザーハウスを知ったきっかけは？

K

N刑で、訓練工場から、決められた工場に配役（は
いえき）された時にいた仲間が、たまたまマザーハウ
スの会員だったんです。

まず、マザーハウスの話題になる前に、工場に入っ
たら、周りの人たちが聖書の話をしていました。
受刑者が聖書の話をしているなんて、生まれて初め
てなので、聞いたのが。だからびっくりして、まだ慣
れていないので（話に入るわけにもいかに）聞き耳
を立てていたら、マザーハウスの話が出て。で、しよ
うがないから、こつち我慢できなくなって聞きますよ
ね。そうしたら、出所者支援とかそういうのをやっ
ているから、手紙を出してみてくださいって。その人
が言ったのは、「（社会の人と）文通もさせてくれま
す」って。文通もさせてくれるって、ちよつと気が向
きかけたけれど、それはちよつと違ふなと思って（笑）。
で、じゃあお願いしてみようかなって。一ヶ月かっ
たんですよ、聞いてから。悩んでいて。たまたま、そ
の人がちよつと向かいの部屋になって、「やってみたら」
「やってみたら」って言うので、とりあえず手紙を出
してみました。そうしたらすぐ返事が来て。

大阪のピーちゃんさん



五

今、工場の話が出たんですけれども、刑務所っていうのは、新入（しんにゆう）訓練工場というところに最初、配属されるんですね。各刑務所によりけりなんですけれども、この施設はこういうかたちで運営するとか、刑務官が色んなことを説明してくれる。そこで、分類審査っていうのにかかまして、そこから各工場に配役されて、その工場ですべて仕事をしながら、工場内のメンバーと共同生活をします。

それで、同囚の方が「文通」っていう言葉を出した時、Kさんの中では、どういうイメージでしたか？

K

自分が今、孤独で、寂しい思いをしていたから…で、女性の方って言われた時に、正直そういう（出会いや交際のような）欲は出ましたよね。だから、そういう言い方をされちゃうと、やっぱり男だから気持ちに向いちゃう部分があったけど、でもそれは違ってたって（思い直して）。

五

やっぱり多いんですね。マザーハウスでは文通をやっているんですけれども、どこでどういう話が出るんだか分からないんですけど、「若いお嬢さんと文通させてください」とか、「大学生と文通させてください」とか。そういう（自分の望む相手と文通する）目的でやっているんじゃないんですけれども、刑務所というところは、男子の刑務所は一切女性がいないので、そうすると、孤独な人がいっぱいいるんですね。初めての刑務所の場合は、この両親とか親族が交

流をしてくださることも多いんですけれども、何回も何回も繰り返し刑務所に入っていると、まず、親族、つまり親兄弟が、もう全く相手にしてくれなくなりまます。そうすると、ずっと孤独で、刑務所で独りぼっちになる。その中で過ごす。だから、同囚とは仲良くなるんですけど、外の人の触れ合いはほとんど無いです。先ほど言ったように、教誨師さんとか、そういう人はいますけれども、教誨師と文通っていうのは出来ないんですね。教誨師はあくまでも刑務所の教誨師であって、個人的に文通とか差入れとか、そういうのは一切、出来ない。それなので、マザーハウスに手紙をくれる方の中には、往々にして、孤独だから、寂しいから、受刑中だけ楽しくやりたいから、女の人と文通させてほしいという人がいます。全員ではないですけど。

Kさんが手紙を出して、その後、マザーハウスの方から資料が届いたと思うんですけども、資料を読んでどう感じましたか？例えば、アンケート調査とか、出所日とか、自分のプライバシーを書くじゃないですか、厳しいこと（自分にとって辛いこと（過去の出来事など））も。その他に回復プログラムとか。それらを手に取ったときに、「いやあ、これはちよつと…面倒くさいなあ」と思う人もいれば、「こういうのもちゃんと書いて、初めからやり直そう」とか、色々思う人がいると思うんですけども。

K

まだ会ったこともないし、分からないじゃないですか。だから、自分のことを伝えるのに、真摯に書くことは思いました。伝えるために。

五

その後、「文通の相手が決まりました」とか、そういう連絡が来たと思うのですが、その文通者と手紙のやり取りはしましたか。どういう感じで…？

K

しました。確か、自分が最初にマザーハウスにお願いした時に、聖書のことをもっと…みことばとか聞きたいので、そういう方をお願いしますって、そういうことを書いたと思うんですよ。それが聞かれたのか分からないんですけど、決まった文通相手がクリスチャンの方でした。文通の内容的には、ほとんど、みことばのことをどんどん送ってきてくれて、プリントをコピーして送ってきてくれたので、自分は本当に勉強になりました。自分が質問したことに対して、わざわざ神父様とかに聞いてくださり、送ってくれました。

五

その中で、気づきがあったり…。

K

いっぱいありましたよ。「これ、導きかな」と思うのは、自分が今、直面していることに対して、頼んでいないのに送ってきてくださる。そこで、目から鱗が落ちるように気づく時があった。本当に有難かったですね。

五

そのときKさんは内掃工場にいたんですね。内掃っていうのは、刑務所の中で草刈りをしたりするところです。そういうかたちで、一般工場とは違っ

…刑務所、国側が運営している工場があるんですね。内掃工場の他に、炊場工場とか、洗濯工場とか… 経理区って言われているところです。経理区っていうのは、刑務所の中ではエリートの方が行く工場です。問題児は大体、経理区の工場には入れないんですね。Kさんは、仕事が終わった後の余暇時間はどのように過ごしていましたか？

K

聖書を読んだり、手紙を書いたりしていました。

五

自分の中で、「これは」っていう聖書の言葉はありますか？

K

うーん、その質問来るなって思っていたんですけど(笑)。いっぱいあります…読んでいて感じることはいっぱいあるんです。でも、聖書から離れると結構忘れちゃいます。ただ、自分がいつも感じているのは、「聞く耳のある者は聞きなさい」(ルカ八章八節)。これは大事だと思うので、胸にしまっています。

五

大事なことですよね。祈りの中で、神様の声を聴く、メッセージを聴くっていうのは、本当に心を澄ましていないと、なかなか出来ないことだと僕は思います。Kさんはいつもどういふかたちでお祈りしていましたか？

K

自分は本当に、祈り方も何も知らなかったんですよ。だから、聖書に書いてある、主の祈り(マタイ六章九〜十三節)を必死に唱えたり…あとはもう、例えば、関わってくれている人、刑務所の工場の人、マザーハウスの方々、一人ひとりを思い浮かべながら、分かんないですけど、まだ字んでいないので…ポランテアの方とか、すごい色々やってくれているじゃないですか。そういう方たちの苦労は分からないけれども、やってくれる人たちのことを祈って、自分のことはあんまり祈らなかつたですね。自分のことを祈ると、何か…あさましいような感じがしてしまつて。苦しい時は祈るかもしれないですけど。

五

マザーハウスたよりっていうのが毎月、受刑者の方に送られていたと思うんですけども、その他にも、本などが入っていたと思います。そのたよりや本を読んで、どんな風に感じましたか？

T刑 Kさん



K

最初、『幸いな人』のバックナンバーを送って頂いていたんですよ。送って頂いていて、自分はそういうこと(みことばの学び)がしなかったんですよ。まず、会員になって、やり取りして頂けるようになった時に、お願いしたことがあったんです。みことばをたよりに載せてほしいって。っていうのは、みことばっていうのは、ただ読んでいると、結構流して読んでしまっじゃないですか。それがポンと置いてあると、何か心に響く時がある。それで、自分で聖書を開いて読んで、あなるほどなって思うことが多いので。でも、そのお願いをしたときは、「今は手が足りないから難しい」という返事を頂いて。その後、『幸いな人』が届いた時に、じっくり読みながらやれたので、本当に良かったです。

五

それは本当に申し訳なかったと思います。ただ、何かかっていうと、私自身、神父でもないし、牧師でもないの、一信徒という立場でみことばを解釈して、それを文章にして人に教育っていうか、教えるっていうのはしたくないって僕は思ったんですね。やはり、聖書を根本的に教えるなら、神父様もしくは牧師先生がやるべきことであると、僕は思っている。それなので、マザーハウスたよりに載せるものも、体験談を書いているものが多かったと思いますね。今現在では、『福音たより』っていう、刑務所の受刑者向けの、キリスト教に特化した冊子を出しています。それは、キリストの学びがしたい方に『福音たより』を送ってください、というお手紙を頂いた方に(送っています)。

うちの編集の方が、「そういうのをやってみよう」と言ったので、やることになったんですけどね。まだ、Kさんがいた時には、そこまで正直言って（人手が足りなくて）出来なかった。申し訳なかった。

離れられない「しがらみ」を感じて

五

例えば、だんだん、刑期が終わりに近づいてくると、「出所」というのが出てきて、出所にあたって、色々な不安が出てくるじゃないですか。家が無い人もいれば、仕事はどうするんだ、と考えたり。自分はじゃあ、これから何のために生きようか、とか。僕は受刑中、キリスト教の方との触れ合いがあったので、自分の中では、出所に対して、「キリストに生きたい」という思いで社会復帰の準備をして出てきた。Kさんの場合はどういふ感じでしたか？

K

自分が感じていた不安っていうのは、やっぱり家が無いことですね。さらに、というか、元々あった不安っていうのが、元の生活に戻ることに。そういうのは、仲間に頼れば何とでもなるんですよ。そうすれば、家もあるし、前の会社にも行けるし。頼るっていうことは、元の生活に近づいていくことじゃないですか。それは嫌だったので、じゃあどうすれば良いかって考えたら、やっぱり保護会とかに頼みますよね。そして全部蹴られた。

そのときに、五十嵐さんがF刑で一緒だったって言うていたんですけども、自分の兄貴がN刑にいたことを知っちゃったんですよ、N刑に。何十か所もある刑務所の、同じ所にいたんですよ。それを知ったときに、やっぱり、腐れ縁っていうか、離れられない「しがらみ」を感じてしまつて…離れられないって思ったら、不安になりますよね。で、その元いた組織のオヤジ…自分は養子縁組をしていて、その家に入っているから、本当の家族みたいになつちやつています。そのしがらみから逃れるには、もう本当に離れるしかないなつて思つて。逃げるというか、離れるしかない。そこで、本当は出来ればマザーハウスに頼らないのが一番良いつて思つていただけですけども、そこを悩んで、マザーハウスにお願したんです。そうしたら引き受けられることになつたので、少し希望が湧いた。

五

刑務所の中では、組織の方がスカウトするんですよ。組織は人材が必要ですから、使える人材をピツクアップして、「うちの組に来ませんか」と。そこで、組織内における兄弟の盃を、刑務所の中でやる人たちがいるんですね。

皆さんもご存知かもしれないですけど、親分・子分の世界になると、外部交通ついで、手紙のやり取りが頻繁にあるんです。刑務所の中で一番手紙のやり取りをするのは暴力団関係者です。別にそのことを褒めるわけではないですけども、それだけ繋がりが深いんですね。だから、社会復帰したときに、「おかえりなさい」って待つているところもあります。それでみんな、また戻つちやうんですね。手が切れ

ないつていうのは、そういう部分があるんです。組織という、行く場所がちゃんあるの、そこにほとんどが戻つてしまふ。そこから解放されるつていうのは、よほど本人が意志を強く持つて、なおかつ、暴力団離脱届けつていうのをしっかり書いて、「一切、そういう方とは関わりを持ちません」つて。本当に強い意志を持たないと、なかなか難しいです。

当法人にも、元組織の方がいて、僕も対応しましたけど、その組織が属する地域を管轄している警察本部に連絡をして、「絶対に繋がりにたくありません」つて言つて、警察本部から暴力団対策法に基づく中止命令とかを出してもらつて。今は暴力団対策室とか組織犯罪対策部つていうのがあるんですけど、僕が対応した時は「マル暴」つていう…捜査四課つていうところが担当して、その刑事さんが、組織のトップもしくはナンバー2を警察の方に呼んで、「この人間はもうあなたのとこ縁を切りました」と言う。そうすると大体、組織側が言う言葉は、「その人間はうちの組織とは絶縁となつています。破門となつています。だからもう、関係ありませんよ」と。だけど、それは上辺だけなんですね。なので、僕たち外部の人が、警察に行つて、中止命令とかそういうのを出してくださいつてお願いをする。そうすると、警察もそれなりの行動をしてくださいます。今は警察がすぐに動くので、よほどのことが無い限り、（警察に中止命令を出されたら）「はい分かりました」つて組織の方は言います。

それで、Kさんは、元の仲間に頼らないつて決めて、満期が近づくとつれて、何か変化はありましたか？

K

「マザーハウスが引き受けてくれるようになったときに：自分の場合は保護観察所にすぐ蹴られたじやないですか。でも、マザーハウスに手紙を出したら、引き受けが決まったので、それでもう自分は不安に感じなかった。そこで委ねたというか。「そこに行けば良い」というのだけは感じていました。不安は無かったですね。」

五

今の補足なんですけれども、マザーハウスで身元引受人の申請を受刑者から頂いて、審査を経て、「受け入れますよ」と出すのですが、その後、刑務所側から東京保護観察所の方に連絡がいき、環境調整っていうのをやるんですね。その環境調整の中で、僕が、前科があるので、やっぱり身元引受人となるのは難しいと、そういう判断をして、実際に何人もが（マザーハウスでは許可しても、刑務所側で）、身元引受を却下されています。

僕も何回か法務省の方にお話ししたことがあるんですが：居場所が無い、帰る所が無い、繋がりが無いから、そうやって再犯を繰り返すのに、何でそういう部分を改善しようとしなんでしょうか、と。法務省側は、ほとんど動いていないのが現状です。動けば必ず、一般の人でも、「この人間を引き受ける」ということになればスムーズに引き受けられると思うんですね。まあ、僕の場合は前科があるんですけど：以前、千葉裁判所で裁判になったときに、国側と争ったことがあって。そのとき、千葉地裁の裁判官が、「五十嵐弘志は、犯罪性を有する人間ではありません

ん」という判決で確定判決を出したんですね。それでも、法務省は、前科がある人間に対して、「危ない」という見方をしています。各都道府県・区市町村にも、刑余者の人権を扱う部局があったり人権週間というものがあつたりするんですけども、なかなか前科者の人権を尊重するというか、認めるのは少ないということですね。

（来月号につづく…）

わちぎみじお「コーナー」

一生感謝

最近、「ああ、もう思い残すことはない！」というほどのすばらしい恵みの体験をした。心から神に感謝し、この体験を一生感謝しようと思心した。日々それを思い起こし感謝しているうちに、これまでに何度もすばらしい恵みの体験をしてきたことを思い出した。同時に、たくさんの恵みを受けていながら、し

*ブログ：<http://ixsasaki.ti-da.net/>

ばらく経つとそれをすっかり忘れてしまい、様々な出来事について不平や不満の思いを抱えてきた罪に気が付いた。

「わがたましいよ、主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」（詩編百三章二節）と聖書に書かれている。詩編百四十五、百五十章には、これでもか、これでもかと、ダビデの賛美が高らかに歌われている。数々の試練に遭遇してきた中で、いつも神に感謝し賛美を捧げてきたダビデは、神の大きな恩恵を生涯にわたり受け続けた。恩を忘れて感謝しないことは、「恩知らず」すなわち「高慢」という大きな罪である。不平や不満は、その人の心を不快にし、体の健康を損ね、家族を苦しめ、社会にも害を及ぼしていく。逆に、感謝と賛美は、その人の心を明るくし、体を健やかにし、家族を喜ばせ、社会にも益をもたらしていく。「神の子」として新しく造られ、永遠の命を頂いているクリスチャンは、父なる神の最大の犠牲と恩寵である「キリストの十字架と復活」をこそ、生涯にわたり感謝し、主を賛美して毎日を生きるべきであると思う。

熊本の貴水さん



育児日記 理事長の奥さんによる

最近のA君は、何でも数字に例えるのが好きです。妹のKちゃんも仲良く遊んでいたのですが、「Kちゃんのこと好きなんだね♪どのくらい好き?」と聞くと、「いちまんごせんえんくらい」と答えていました。朝、遊びに夢中でなかなか着替えをしてくれないので、洋服を着させようと頭から洋服をかぶせると、「あそんでいるときにやめてほしいんだよね」と言ったので、「だったら最初から着替えてほしいんだよね」と言つと、「だったら、きがえてついでよ」と言つたので、「もう十回以上言つてよ」と言つと、「じゅうちまんごせんえんくらい、いつてくれないとー」と言っていました。Kちゃんは、家ではよくお話をしておてんばなのですが、慣れない環境だと、ほとんどお話をしなくなつてしまいます。A君が幼稚園に入つてから、送り迎えや行事等に一緒に行つていますが、一年経つた今、ようやく、「初めて声を聞いた」と幼稚園のお母さん友達から言われます。次女のRちゃんは、外で歩くのが大好きで、いつも玄関で誰かの靴を履いています。公園に行くと一人でもちよちとどこかに行きます。三人を公園に連れて行くので、てんでんばらばらなので大変です。



塀の中のたより

―受刑者からのお手紙―

自分のことばかりにならず、 相手のことを思いやる

〇刑 ーさん

四月号の理事長挨拶で、たより等が新品のまま廃棄処分されている、とありましたが、私が現在務めている〇刑でも同じで、中には、私がマザーハウスのことを勧めて支援を受けている人もいます。その人に、「なんでたよりを送ってもらった本を読まずに捨てるの?」と聞くと、その人は「読んでおつたらいいことしか書いてない。文通も、更生についてのことはいいので、つまらんから手紙返さないし」と笑いながら言うので、私は苦笑いをして心の中で、「勧める人を間違えたかな…マザーハウスに申し訳ない…」と考えたりしました。理事長の言葉にもある通り、「何かをしてくれた人のことを思いやる気持ちが大切」(四月

号二ページ目より)ですが、私自身、今までの刑務所生活で、様々な嫌な思いをしてきたので、「かなり人の気持ちを考えて生きられるようになった」と思っていました。

しかし、先日、父親が面会に来た際、私は、緑内障という目の病気にかかったかもしれないので、医務に申し出て隣接する医療刑務所にて見てもらってきただことを伝えました。すると、父親も、実は胃力メラを飲んで、ポリリーブが見つかり、今結果待ちだと私に伝えました。そのとき、私は父の話ではなく、私の目のことばかり話してしまいました。すると父は、「お前は自分のことばかりやんけ!いつもそうや!工場でケンカしたとか、嫌なことを言われた、された、すぐ工場変わつて。今も心が落ち着かんのか知らんけど、工場にも行かんと、いつまでも独居生活ばかりで…」と久しぶりに叱られました。私としては、以前事務局へのお手紙に書かせて頂きました通り、落ち着いて生活できていますが、職員さんに「今の独居生活はまだ続くんですか。工場にはまだ戻れないですか」と聞いたら、「落ち着いたからと言って、『ハイそうですか』とすぐには工場生活には戻せない。ステップアップに段階を踏んで、少しずつ元の生活に戻る」とのことでしたので、それを父に説明しました。ですが、刑務所の中と外との温度差みたいなものがあり、また、今までの社会での私の生活態度も踏まえてか、工場に出ないのは私自身が「工場に出たくない」と言っているからだ、と考えているのだと思います。私は、処遇面接を受け、「また工場に戻つて頑張りたいです」と言っていますが、親には、今現在の私の状態が全てのようで、食い違いが生まれてし

まい、困っています。そのような状況ですが、理事
長挨拶にあったように、「せめて相手のことを思いや
り、お礼の気持ちを示すことが大切」（四月号二ペー
ジ目より）ということを忘れず生きていこうと思いま
す。

遺族の気持ち

K刑 Kさん

前回、事務局から手紙をもらって一ヶ月半くらい
でしょうか。そこに書かれていたことを日々考えてい
ました。手紙にあったように、私自身、自分のこと
を傲慢だと思います。いつも自分本位な考えや行動
を取ってきた結果が今のこの状況なのかなと。性根が
薄っぺらい人間ですから、物事を深く考えずに行動
するので、いつも「後悔」ばかりしています。そして、「後
悔」はしても反省をしないし、してもその場限りで
すので、学ぶことをしなかつたんです。本当にクズみ
たいな人間だと思えます。外にいた約二十年間、少
年院も入れたら約二十五年くらいでしょうか。一番
は家族ですが、周りに迷惑ばかり与えてきた年月で
す。今回の事件も、まさか刑務所に入るとは思いま
せん（強盗殺人ではなく窃盗をするつもりでした
から）、どうせ少年院に入るのだから、一件も二件
も一緒だろうと、そう考えていました。私はこれま
で、沢山の人に本当に数えきれないくらい、迷惑と
言葉では言い表せきれないものを与えて生きてきま
した。それでも、自分の言葉で言うのはおかしいで
すが、根が明るいし、誰でもすぐ仲良くなれるので、

沢山の人に可愛がられ、その分、更生する機会は人
よりも沢山あつたと思います。振り返ってみると、本
当に人に恵まれていたかと、感謝の気持ちが心から
出ます。それでも、私のことを考えてくれていた人
たちを裏切り、都合の悪いことに目を背け、耳を塞
いできた今のこの状況は、なるべくしてなった、と思
います。

初めて捕まったのは十八才で、世間知らずだった時
に、弁護士に「何故、犯罪をするのがいけないのか」
と聞かれました。私は、「犯罪は法律で禁止されて
いるし、迷惑をかけるから」と、ありきたりなこと
ばかり口にしていました。でも、弁護士は、私の言っ
た事は当たり前で、犯罪をすると誰かが傷つき、苦
しむこと、そして、私が簡単な気持ちで盗むお金は、
被害者が命を削って働いて得た大切なお金なんだと、
叱ってくれました。そんな初歩から教えられました。
少しだけ、被害者や遺族のことを書かせて頂きます。
今回の事件の遺族は、私より五才ほど年上の娘様で
す。事件を起こし、遺族の方たちのことを考えると
申し訳ない気持ちでいっぱいになります。小さな地域
での今回の事件は、かなりセンセーショナルなものみ
たいで、マスコミ関係が騒いでいました。なので、必
然的に、娘様の方に何人も駆けつけて、ホテル生活
を余儀なくされていきました。また、飛行していた報
道ヘリの音が忘れられずに、換気扇の音に恐怖した
りもする、と言っていました。忘れられないのが、亡
くなったお母様に見せたかったことや、一緒にやりた
かったことを述べていたことです。私が事件を起こさ
なければ得られていたであろう幸せは、一瞬で消え
て、深い傷を残しました。正直に言えば、何をどう

すれば償いというものができるのか、と考えてしまし
たが、答えは分からず、ただ、決して私のしたこと
は償いきれるものではないことは確かです。しかし、
だからといって、何かをすることを諦めることこそ、
全ての人に対して無礼極まりないのかと思います。

拘留所にいた時、まだ判決が出ていなかった私は、
「有期になりたい。出たい」という気持ちがありま
したが、一方で、被害者や遺族のことを考えて、そ
の矛盾した考えにどうしたら良いか分からず、葛藤
していました。そういつたことを日々悩んでいる時に、
娘様は、家庭裁判所で「もう二度と外に出してほし
くない」と言っていたのを思い出しました。そのとき
に、私はまた一つ自分の愚かさに気づきました。私
は人の命を奪い取った、どうしようもないほどのクズ
です。大切な人の命を奪った相手に対して、同じよ
うにしてほしいと思うのではないか。「もう二度と出
してほしくない」という言葉の裏には、死刑はあり
得ない、と分かっていたところがあるのだと思うので
す。もしかしたら、その言葉が出るまでに、何かを
呪い、憎しみ、悲しみ、苦しんだのではないだろうか
と。いくつもの壁というか、感情を乗り越えてきたの
か、と思うと、まだ自分のことを考える私がどうし
ようもない人間だと、改めて感じるんです。その時
になって初めて、「別に無期になつたらそれでも良い」
と、「控訴をすることは絶対にしない」と決めたので
す。例えばどんな結果になろうと、受け入れると決め
たので、無期が決定した後に様々な人たちに控訴を
勧められましたが、耳を傾けませんでした。私は、
懲役というものがどういふものかも分かっていません
でした。あの時に懲役というものが分かっていたらど

うしただろう、と考えた時、嘘ではなく、それでもやっぱり受け入れただろう、と思えます。言葉の通り、懲役は懲らしめられる役で、とても辛いです。しかし、自分がやったことの責任であると、(ほんの一部ですが)思うからです。こうやって平気な顔でご飯を食べ、笑って、衣食住が揃っている私がいる反面、辛くても生きるために働いているであろう遺族のことを考えると、心の底から申し訳ない気持ちでいっぱいです。そして、私の考えはまだまだ独りよがりの自己満で終わっているのではないか、と思うのです。本当は全然、何も知らないのではないかと思ってしまう。

私との手紙のやり取りが、遺族に不快な気持ちを与えるのは百も承知です。承知しながら、口を開けてエサを待っている魚のように、人に甘えて他人任せにしようと、御法人に迷惑をかけたことを大変申し訳なく思います。すみませんでした。

イエスに触れて変わることが出来る

丁刑 Nさん

来年度からは再び新しい挑戦です。「常に寡黙に、常に求道心を持ち、急がず、慌てず、そして常に主と共にいられることに喜びと感謝を忘れずに」頑張ろうと思っています。

なかなか、私の周りにいる者(一部)も、人に迷惑をかけても気にしていない者、己のことしか考えない者がいます。ただ…一人だけ取り上げてお話しさせていただきます。この方は、東京で暴力団をしているのですが、この方だけは、今も私は、時間があ

れば聖書のことや教会のことを話すことが出来ます。

例えばヤクザであっても、キリストを信仰するにあたり変わってくださる、と私は信じていたので、マザーハウスのことも話したのですが、「暴力団なのにキリストを信仰するのか」と言われたこともあったようです。私は思うのです。あの、キリスト者を迫害する中心者であったパウロでさえ、イエスに触れ、変わりました。「イエスを信じる者は救われる」と信じてその方と接してきましたが、私との話の中で、「ヤクザさえ辞めてもいい」と真剣に話す彼がいたのです。この方は「組長」という役職の上で、こうした言葉を吐露してくれたのは、やはりイエスに触れたからだと思信じています。お祈りを続けてきて、本当に私も嬉しかった。心より感謝です。自分の事を祈り、叶う時よりも嬉しいものでした。真剣に「でもキリストに触れようとしている方がいることは、私を変えてくださる出来事です。主に感謝です。」

クリスマスカードで励ましてくださった施設の子、また、バスカードを送ってくださった方、こうした行いによって、私も心が元気になっています。ありがとうございます！

私も、もともと聖書を知るために、この度、聖書事典を購入しました。もともと知りたくて仕方がなくなりました(笑)…そして、人のために、みことばを話せるように、より知識をもって歩きたいと思っています。

**この部分は
期限切れ
のため、
閲覧
できません。**

このページは

期限切れのため、

閲覧できません。

生きることを諦めない姿

G 刑 ーさん

『百万人の福音』三月号の「旬人彩人」で、黒田良孝さんのことが書かれていました。五才の時に筋ジストロフィー（※骨格筋の壊死・再生を主病変とする遺伝性筋疾患の総称で、症状として、筋力低下など、様々な機能障害や合併症を伴う）と診断され、「長く生きられず二十歳くらいまで」と言われた、とありましたが、それが現在も元気でいらつしやることに主の導きがあつたのだらうと思ひながら読みました。さらに、大学まで行かれたこと、そして普通ならば、外に出ることはせず部屋に閉じこもつてしまつことも多いでしょうが、黒田さんは、逆に外に出るようにして、病気のあり方を知つてもらつていた、という部分を読んで、とても心の強い人であると感じました。初めの頃は人の手を借りていたのが、今では一人で外出するようになり、乗り物や飲食等では人の手が必要だけれども、自分で出来ることは極力一人でしている、とのこと。

そのことを知り、私は、幼少期に母からの虐待を受けたことで親への信用を無くし、その反動から家出を繰り返して、犯罪を繰り返して、暴走族に入つたりして、母親を憎んでいましたが、それは私の甘えだつたのではないかと、思い知らされたような感じがしました。黒田さんは私以上の逆境にありながら、生きること諦めずに生きてきたことに、私は（自分のことを思い返して、）人間として恥ずかしく思います。私は当所に来てもうすぐ三十年が経ちますが、人

生の約半分を「こ」で過していることになりました。間もなく工場対抗運動会の実施が予定されており、私は五十を越えた老年ですが、リレーに出ます。一応、候補者全員のタイムを何度か計つたのですが、私は三番目に早かったことで選手になりました。私の本音を言いますと、もっと若い人に走つて頂きたい、という思いです。他の選手は三、四十代なので、練習をするにしても体力も違つたために、辛い大変です。ですが、選ばれた以上、途中で泣きを入れずに頑張ろうと思ひ、練習をしています。気持ちは若いつもりでいても、体は正直なもので、若い人とは違ひます。それでも皆が優勝を目指して頑張つているので、私も引つ張られているところです。

「非社会的」言動が積み重なって

「反社会的」行為へ

O 刑 Oさん

「こ」での生活の中で、受刑者を観察して気付くことは、人間が丁寧に日常生活を生きていく上で大切なことを面倒くさがつてしなかつたり、手間の掛かることを人任せにしたりする人が多い、ということですが。室内の整理整頓にしても、作業上のことにしても、やれば出来るのに、極力それらを回避する行動様式が身につけています。「社会的（反抗的態度ではない、という意味で）手抜き」が当たり前になっています。そして、「反社会的」とまではいかないけれど、「非社会的」な言動も多いと思います。その非社会的な言動の前で、割と常識的な考え方をする人が小さく

なつて生きづらそうにしている場面も散見されます。そして、心理学などでよく言われる「投影」（≡投射。自分自身の考え、欲求、感情等を受け入れられない、あるいは認めたくないときに、それらが他の人や物にあるように感じ取る心の働きのこと。精神分析でいう防衛機制の一つ）という現象もよく見られます。自分がしていることを他者の中に見つけて、強く非難して相手を傷つけるのです。このような傾向を見ていると、受刑者一人ひとりが更生するには、この「非社会的」な言動を一つでも多く改善していくことが大切であるように思われます。多分、この「非社会的」な行動や思考を複数重ねていくことで、「反社会的」行為へと結びついていくのだと思います。

「あからさまに戒めるのは、ひそかに愛するのにまさる」（箴言二十七章五節）とありますが、今時の刑務官でも、個々の受刑者に対して、叱つて助言をするということをしないう方が多いです。私は専門家ではないので余計な意見は差し控えるべきだと思ひますが、更生を目指す受刑者の立場として一つだけ言えることは、制度の枠組みづくりよりも、法務省にはまず、人づくりをしてほしい、ということですが。枠組みを作つても、残念ながら、刑務所という組織は、表面だけを取り繕つて本質を覆い隠してしまうことに長けている面がありますから…。

NARITAさん



外に戻ったとき、

心に油断ができないように

〇刑 Tさん

『生きる』には意味があり、今日の『恵み』に感謝して、明日に向かって『希望』を持ちましよう。すてきな言葉、本当にありがとございます。『待つてくれている方々が居る』（寄り添ってくれる方がいる）。そう思うことが出来る。生きる活力を頂き、ファイトが湧いてきます。感謝しています（涙×2）。

今、ここでの生活をする上で、いかに自分自身を見つめ、自制することが出来るか？が大切なのだと思うようになります。同僚たちによく言われる言葉があります。「いつもそんなに言いたいことも言わず、やりたいことも我慢して、毎日がしんどくない?」。また、「毎日が楽しくないだろう?楽しくやろうよ〜っ!」と。多数の方に言われました。その都度、私が考えるのは: 刑務所の中を、楽しく、穏やかに居心地の良い場所にしては、外の世界に戻ったとき、心に妥協（油断）ができ、また罪を犯してしまうのではないか。だから、常に緊張感を持つように心掛けていく、と。自分の芯をしっかり持って、自分自身の行動・言動には責任を持つように頑張っていきたいと思っております。

「無理だ」「ダメだ」

と言わない・思わない

M刑 Kさん

「この頃、暗い事件のニュースばかりで、事件を起こした者には裁判で重罰が下されると思いますが、私が受刑生活を通して思うのは、この者たちが刑務所で罪を償ったとしても、精神的な救いは無いのではないかということです。私も、主イエス・キリストの救いが必要と思うわけで、一人でも多く、精神的な救いとして主イエスを受け入れる者が増えるように、と思っております。

「ある日のこと、イエスが弟子たちと一緒に舟に乗り、『湖の向こう岸に渡ろう』と言われたので、船出した。渡って行くうちに、イエスは眠ってしまった。突風が湖に吹き降ろして来て、彼らは水をかぶり、危なくなった。弟子たちは近寄ってイエスを起こし、『先生、先生、おぼれそうです』と言った。イエスは起き上がって、風と荒波とをお叱りになると、静まって風になった。イエスは、『あなたがたの信仰はどこにあるのか』と言われた。弟子たちは恐れ驚いて、『いったい、この方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか』と互いに言った」（ルカ八章二十二〜二十五節）。この部分を読んで、主イエスは、あらゆるものを従わせることができ、それによって私たちに平穏をもたらしてくださるのだと思えました。そして、「無理だ」「ダメだ」などの不信仰の言葉・思いを咎められたのだと思えました。私も、主イエスを受け入れ、回心を誓ったのですから、主に信頼し、私の身を委ね、平安・平穏に務めようと思えます。残刑二年半が過ぎれば、嫌でも自由の身となり、厳しい現実と向き合うことになるのですから、罪を悔い改め、出所・社会復帰に備えた生活をしようと思っております。

大変と思うか? 使命と思うか?

M刑 Tさん

振り返ってみれば、私の八十五年の歳月は、五十年が刑務所生活ですから、何のために生まれて何のために生きてきたのか、と常に考えてしまっている。過ぎ去ったことを思っても仕方ないことですが、私にとつては刑務所生活が基準となってしまうので、これからの生き方は、物事すべてを新鮮に受け止めて行動を取っていかねばなりません。年齢だけは積み重ねていても、心の中身は浦島太郎ですから、素直に心に受け入れて社会に対応していけるようにして、社会に馴染むことを大切にしていかなければなりません。

現在、同部屋他の二人は身体の一部が不自由で、大変な生活を余儀なくされています。私はその介護をしながら生活しているのですが、それを大変と思うか? 私の使命と思うか? 常に心に留めて生活しています。

心の教訓

元・貴族は餃子好きさん

以前、たよりの理事長挨拶に「会費も払わず、お願いばかり: マザーハウスは御用聞きではない」のようないことが書かれていたのですが(二月号等より)、私は、会費を払っているからといって、胸を張ってお願ひできるものだとは思っていません。会費という名

前はあるものの、これは献金だと思っけていますし、実際に会費以上のものを受けているからです。それは、私だけではなく、皆が平等に受けているのです。分かりやすいもので言うならば、『百万人の福音』の送付だって、本一冊の値段は約六百円です（※キリスト教冊子の送付は、すべて社会の方の寄付金により実施しております）。これを毎月送って頂いただけで、約七千二百円を超えるのです。それに送料もかかるわけで…。他にお金に代えられないものだってあります。私はその気持ちに少しでも応えたいと思い、受刑生活でなるべく贅沢をやめ…例えば、毎月買っている本を一冊減らす。タオルやチューブ、シャツ、パンツは官物（※刑務所にある物品で、支給してもらえらる）を使い、節約する…そのようにして、今回の会費を送ることが出来ました。「人から受けた気持ちは、気持ちで返す」。それが人と人との繋がりとるのではないかと思っけています。

最後に、私が心に留めてる言葉を紹介します。

- 一、明日を明るい日とするには、
今日を精一杯生きることである。
- 一、世の中に完全な人はいないように、
欠点だけという人もいない。
- 一、気に入ることはかりをしたがるは、
安易を求める怠け心である。
- 一、説得には言葉だけでなく、
相手の幸せを願う誠意が大切である。
- 一、苦勞に耐えて学んだ事は、
生涯身につくことになる。
- 一、人は平等でも立場は異なっている。
立場を無視すれば秩序が乱れる。

- 一、思うようにならぬ時こそ、
自分の生き方を省みる好機である。
- 一、真剣に働いている姿こそ、
人間の真の美しさがある。
- 一、男女同権とは、
互いにその特性を發揮して生きることである。
- 一、不足不満が絶えぬのは、
物事を自分中心に考えるからである。
- 一、感謝の心がなければ、
人生を明るく生きることが出来ない。
- 一、人格向上への近道は、
苦手な事に立ち向かつて行くことにある。
- 一、他人を信頼出来ないようでは、
より大きな仕事は出来ない。
- 一、苦勞を避けていることは、
幸せへの機会も避けていることになる。
- 一、自分の短所に気がつけば、
人の欠点もゆるす心になれる。
- 一、注意されることを嫌がる心が、
自分の向上を阻んで（はばんで）いる。
- 一、好き嫌いの感情があると、
物事を公平に見ることは出来ない。
- 一、自分の道が開けないと嘆く人は、
自分に信念がないからである。
- 一、日々の積み重ねを怠っけていては、
どんな目標にも到達出来ない。

T刑 Kさん



似て非なる二つの「愛」

T刑 Yさん

- ・我は石 擦りこすれて 丸くなる
- ・他人のため 自分のために 更生す

神父様に指導を受け、常に聖書を座右に置き、また、靈的読書を通して魂を磨いていても、古い自己や過去の悪い習慣に流されてしまうことが往々にあります。もちろん、環境にも一因があるのかもしれませんが、右を向いても左を向いても受刑者、という中で、本当にやりたいことがやれず、周囲の目をして自分を偽ってしまうことや、神の愛、正義、善行を説いた側（そば）から、その同じ口で毒づき、あるいは怒り、人の心を傷つけてしまうことがあります。人のために尽くしたい。困っている人を助けたい。和解に努め、工場の平和のために働きたい。と思っけて、実践もしているのですが、少しでも心に隙を作ると、人の上に立つこと、力で支配すること、利己心や自己中心、といった思いに捉われ、その居心地の良さから抜け出せなくなるのです。罪からの解放を妨げる最大のものは、良心を誤魔化して、それを正当化しようとすることです。罪深い私たち人間は、日常的に、それこそ無意識のうちに、思い、言葉、

川柳

（同じく、）元・貴族は餃子好きさん

行い、怠りによって、様々な小罪を犯します。確かに、聖霊に助けられる人は、大罪を避けることが出来るでしょう。しかし、あらゆる小罪を避け続けることなど、人間にとって不可能なことです。イエス様が、私たちに教えてくださった祈りの中に、「私たちの罪をお赦しください」（マタイ六章十二節）という句がありますが、このような悔い改めの経験を通して、私たちは謙虚になり、自分の力を過信することの無意味さを知り、神様により頼む姿勢が育まれるのではないのでしょうか。私自身、自分が真に望んでいるキリスト者としての生き方と、実際行っている生き方の間にはまだ大きなズレがあり、現実を思い知らされることばかりですが、そんな自分をも愛してくださっている神様との出会いが、正しい方向へ再出発する力となっているのです。

二月号の「社会の声」に載っていた、学生たちの感想の中に、活動の理念について手厳しい意見がありました（※二月号六ページ目より抜粋）。「最終的に五十嵐さんの考えの行き着いた先の、『人は愛し、愛される、また、必要とされるもの』という考えが、神や宗教の考え方に沿ったものになったことが、言い方は悪いですが残念でなりません。これは決して宗教や神を信じるのが悪いということではないです。しかし、あのような立派な活動をしている中の理念がそれに沿ったものになると、マザーハウスを頼りに来る者にとっては都合のいい理念になると思います。が、僕からしたら、それを理念にしてしまったら、『結局行き着く先は、助けや赦しを、神やキリストを理由にしているだけ。そしてそれをまた理由に、僕らにも赦す意志や、助ける意志を持ってほしい』と言っているに過ぎない」と、正直思っていました。しかし、理事長挨拶でもいつも言われているように、キリストの愛は厳しい愛です。信仰に生きるとは、隠れたことを見ておられる神様に絶えず心を向けて生きる、ということなのです。それは、絶対的な要求として私たちに迫ってきます。自分を偽って、そこで満足を求めようとするあらゆるものを、心から取り除くことよつてのみ、私たちは真の回心へと導かれるのではないかと思えます。ですから、この学生さんの言う愛と、私たちが信じる神なる愛とは、似て非なるものなのです。

【編集局補足】

「この学生の方のように捉えられる方は多いと思いません。せつかくなので、この機会に、この学生の方の捉え方を分析しながら、マザーハウスが意図する「人は愛し、愛される、また、必要とされるもの」のメッセージは何かを掘り下げてみましょう……」

A. 学生の方の捉え方

↓特徴は、「マザーハウスを頼りに来る者にとっては都合のいい理念になるが、『僕』からしたら、それ（神やキリスト）を理由に、『僕』らにも赦す意志や、助ける意志を持ってほしい』と言っているに過ぎない」と述べているところです。

↓この捉え方によれば、マザーハウスは、「愛の神様、キリストがいるのだから、僕ら社会の側は、受刑者を助けなければならない。赦さなければならない」

と主張していることとなります。この場合、「人は愛し、愛される、また、必要とされるもの」というフレーズは、罪を犯した側を保護し、受け入れる側へ要求をつきつけるものです。つまり、神の存在を理由として、罪を犯した人への助けと赦しを行うことを、受け入れる側に求めています。「罪を犯した側の人も、『愛される、また、必要とされる』存在なので、その人たちを『愛し』ましょう」というメッセージになるわけです。このとき、罪を犯した側は何も要求されず、いわば、厳しさはありません。だから、学生の方は、「マザーハウスを頼りに来る者（＝罪を犯した側）にとっては都合のいい理念」と言っています。学生の方、つまり『僕』は、受け入れる側に立っているのです。助けと赦しを与えなければならぬのに対し、罪を犯した側は、罪を犯したにもかかわらず、神を理由に、何も求められることなく、助けと赦しを受けられるのだから、「都合のいい」と評価しているのです。

B. キリストの教えを前提とした捉え方（※「神の前では皆、罪人である」というキリストの教えを汲み、こちらでは、「罪を犯した」ではなく「法を犯した」と表記します）

↓特徴は、神の愛を理由として、マザーハウスを頼りに来る者には悔い改めを、受け入れる側には赦す意志や助ける意志を求めていることです。

↓神の存在を原点とする部分ではAと同じですが、Bは、法を犯した側に対しても、要求があります。Bでは、「人は愛し、愛される、また、必要とされるもの」というフレーズは、法を犯した側、受け入

れる側、双方を保護するとともに、双方に要求をつきつけるものです。「人は皆、愛し、愛され、必要とされる者なのだから、それにふさわしく生きよ」というメッセージを読み取るからです。つまり、法を犯した側は、本来の「愛し、愛され、必要とされる」者としての生き方をしなかつたことについて悔い改め、今後はそのような生き方に入ることを求められており、受け入れる側は、「愛し、愛され、必要とされる」者としての生き方を生きる者として、愛の実践、すなわち赦しの実践を求められているのです。

まとめ

以上、長くなりましたが、マザーハウスが「人は愛し、愛される、また、必要とされるもの」という言葉に込めたのは、Bのメッセージです。Bは全ての人に向けられるメッセージといえますが、マザーハウスでは特に、受刑者の皆さんに向けて、「あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。あなたが必要であり、大切です（このフレーズは、たよりの表紙にある通りです）。だから、あなたの回復を心から願って、「」の活動をしています。どうか、二度と犯罪に関わることはせず、愛し愛されるために生まれてきた本来の生き方を生きてください」と発信する意味で使うことが多いです。

なお、このメッセージと活動の土台は、どんなに罪を犯しても、神様は一人ひとりを深く愛しておられる、ということにあります。この愛のメッセージは、「私の目には、あなたは高価で尊い。私はあなたを愛している」（イザヤ四十三章四節）という箇所をはじめ、聖書のあちこちに散りばめられています。マザーハウ

ス自身、「愛し、愛され、必要とされる」者としての生き方を生きるために、「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい」（ヨハネ十五章九節）、「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」（ヨハネ十三章三十四節）などなどのみことばに背中を押されながら、活動している毎日です。

理事長の奥さんによる Lovely DAYs

小学生の頃、母の日に「喜んでくれるかな♪」と、ウキウキしながら一本のカーネーションを渡したら、母に、「私、カーネーション嫌いなよね」と言われた。そして、三十年後の母の日に、感謝の意を込めてその母から百本のカーネーションが送られてきた。

三十年前に戻って小学生の私を抱きしめながら言いたい、「大丈夫、三十年後に百本になって戻ってくるから!」と。

ブログやっています↓
<https://ameblo.jp/npo-motherhouse/>



山の中のジョンさん
 「三月号のRちゃん」

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

認知症チェック

今回は、私の専門領域でもある認知症のチェック方法についてお伝えしたいと思います。

はじめに、私の祖母について紹介します。祖母は七十五歳を越えた頃、アルツハイマー型認知症になりました。大変シヨクでした。両親が共働きであったため、私は生後数ヶ月から祖父母に育て貰ったと言っても過言ではありません。悲しくて、その現実を受け止めるには時間がかかりました。優しく、何でも話ができ、私にとってはころのより処でしたから…。しかし、ちようどその頃、高齢者看護の専門性を追求していたので、学んだ知識を祖母のために活かしたい、と思いました。祖母は昔からヘビースモーカーで、自宅にいたときは、お茶を飲んでるか、たばこを吸っていました。ところが、認知症になってしまったら、たばこを吸うことも忘れてしまったのです。ベッドでの寝たばこによる火事の心配をしていたのですが、そ

の心配も無くなりました。しかし、一つずつ、私の知っているおばあちゃんらしさが失われていく感じがありました。認知症になっても、化粧とパンチパーマは欠かすことが無かったおばあちゃんでしたが、大好きなお洋服や宝石には、亡くなる五年ほど前から全く興味を示さなくなりました。よく一緒に洋服屋さんに行つては、私と競争をしながら選んでいたことが思い出されます。高齢者施設に入所してからは、骨折や肺炎を繰り返し、最後は食事を詰まらせてしまい、九十歳で亡くなりました。施設でしたので、家族は最期の死には会えませんでした。私は、祖母の状態が悪化するようになってからは、会えずじまいでした。例えば会つたとしても、会つたことさえ数分したら忘れるのでしようが、本当は、感情の中での記憶は残るのですよね。元気なうちに会いに行けば良かったと思つております。皆様も、退所され、大切な方に再会できた時には、ぜひその時間を貴重な時だと考えて大切に過ごしてください。本当に会いたいと思うときには、もういいものですか…。そんな祖母を近くで目にしていたひ孫の一人は、「認知症の予防・治療に貢献したい」と言つて、研究者を目指しています。果たして、その目標は達成できるのかは分かりませんが、自分ではない誰かのために自分の力を使おうとするのって素晴らしいなあと、そんな風に思います。ひ孫が高齢になる頃までには、認知症は撲滅されるでしょうか。

さて、施設の皆様の周辺にも、認知症の疑いがある方はお見えになりませんか？せつかくですので、チエックする方法をご紹介します。

長谷川式簡易知能評価スケール

(HDS-R)

HDS-Rは、質問を相手に尋ねる方法です。チエックをされる側は、試されている印象を持ちますので、質問をする方は、相手の人権をおかさないように十分に留意してください。

質問項目

(掲載の都合上、一部表現を変えた箇所があります) ※不正解は0点として計算してください。

1. お歳はいくつですか？(二年までの誤差は正解) ↓正解…1点
2. 今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？ ↓年が正解で1点／月が正解で1点／日が正解で1点／曜日が正解で1点(最高点4点)
3. 私たちが今いるところはどこですか？ ↓自発的に正解が出れば2点／五秒おいて「家ですか？病院ですか？施設ですか？」と質問して正しい選択をすれば1点(最高点2点)
4. これから言う三つの言葉を私の後に繰り返して言つてみてください。後でまた聞きますのでよく覚えておいてください。

(以下の二つのグループのうち、いずれか一つで行つ。

採用したグループを覚えておく)

- ・グループA：a) 桜、b) 猫、c) 電車
- ・グループB：a) 梅、b) 犬、c) 自動車

- ↓一つ正解で1点／二つ正解で2点／三つ正解で3点(最高点3点)
5. 百から七を順番に引いてください(百マイナス七は？それからまた七を引くと？と質問する。不正解が出たら打ち切る。八十六まで行つ)。
↓「九十三」が回答できたら1点／「九十三」と回答した後、引き続き、「八十六」と回答できたら2点(最高点2点)
6. 私がこれから言う数字を逆から言つてください(「6-8-12」と「3-5-2-9」をそれぞれ逆から言つてもらつ)。「6-8-12」の逆唱に失敗したら、打ち切る)。
↓「2-8-16」を回答できたら1点／「6-8-12」を回答した後、「9-2-5-3」も回答できたら2点(最高点2点)
7. 先ほど覚えてもらった三つの言葉(4番参照)をもう一度言つてみてください(4番で、もし三回繰り返して言つても二つしか覚えられなかったときには、「先ほど覚えてもらった二つの言葉をもう一度言つてみてください」と聞く)
↓a, b, cにつき自発的に回答があれば各2点／回答がない場合、「a) 植物、b) 動物、c) 乗り物」というヒントを与えて正解が出れば各1点(最高点6点)

8. これから五つの品物を見せます。それを隠します。何があったか言ってください(例えば、時計・鍵・タバコ・ペン・硬貨、など、互いに関連性のない五つの品物を用いる)

↓一つ正解で1点／二つ正解で2点／三つ正解で3点／四つ正解で4点／五つ正解で5点(最高点5点)

9. 知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください(答えた野菜の名前を記録する。途中で詰まり、約十秒間待っても出ない場合には、そこで打ち切る)。

↓〇〜五個言えたら0点／六個言えたら1点／七個言えたら2点／八個言えたら3点／九個言えたら4点／十個言えたら5点(最高点5点)

判定方法

HDS-Rの最高得点は、30(三十)点です。二十点以下を認知症、二十一点以上を非認知症としています。HDS-Rによる重症度分類は行いませんが、各重症度群間に有意差が認められているので、平均得点を以下の通り参考として示します。

・非認知症: 24 ± 4
 ・軽度: 19 ± 5
 ・中等度: 15 ± 4
 ・やや高度: 11 ± 5
 ・非常に高度: 4 ± 3

ミニ知識

「HDS-Rを開発した長谷川和夫先生(八十九歳)も、認知症になりました。長谷川先生は、「自

分は年相応の物忘れもあるが、長い診療経験から、認知症であることは間違いない」とおっしゃいました。また、「自分がやったこと、やらなかったことへの確信が持てない。鍵をかけたかどうか確信が持てず、何度も引き返して確かめる。今日が何月何日で何曜日であるかも分からない。同じことを何度も聞く」などの記銘力障害・日時の見当識障害が起きた、と述べられています。約一年半前から認知症の薬も飲んでおられますが、自分の認知症を「年を取ったのだからしょうがない。長生きすれば誰でもなる」と運命に任せ、今を充実して生きることが大切だ、と述べておられました。先生が認知症の診療や研究を始めた五十年前、一九七〇年前後の認知症の患者さんが置かれた状況は、ひどいもので、「役立たず、家の恥」とされ、家では閉じ込められたり放置されたりし、また、精神科病院や老人病院でも手や腰を縛られていたそうです。二〇〇〇年になると、介護保険制度によって、患者さんの地域ケアや訪問介護が開始され、二〇〇五年には、それまでの「老人性痴呆」から「認知症」と呼び名が変わりました。八十年代後半では五十パーセント程度、九十五歳以上では八十パーセントが認知症になる、と厚生省の研究班は推定しています。また、「認知症は、恥ずかしいものとして隠すものではなく、共存すべきものです」とも述べられています。

矯正施設においても、高齢化が著明で、認知症者も増えており、その世話を受刑者が担っています(五十嵐理事長も養護工場の経験がありますね)。社会に出てもその状態は変わりませんので、少しでも、認知症への理解が深まってくれたらと思います。

今回は、認知症の種類や症状についてお伝えしてきましたと思います。

つぶやき!

基本的に大声を出せないこの懲役生活。唐突に叫びたくなります。それをすると、今までの頑張りがパアなので、心の中での熱唱に留めておきます。あ、カラオケ行きたい。(KJ・MOTAさん)

育児日記も楽しく読んでいます。目が細くなりません。私の息子は九歳になり、息子は私が父親とは知らずにいます。ですが、写真を見たり、元妻からの話を聞いたりすると、気持ちが温かくなり、育児日記を読むのも同じ気持ちになります。(K刑Oさん)

最近、私の刑務所では、今までみたいに手紙に絵を描いて色を塗って送れなくなりました。色無しならOKみたいです。よく分からないルールだと思うのと同時に、今までみたいに送ることが出来なくなっても残念です。(T刑Sさん)

やっと温かくなってきたと実感した先日の昼食は、パンと善哉(ぜんさい)でした。小豆の粒々と甘さが、ひと冬の間、寒さで縮こまっていた心と体に染みていくようで、一段と美味しかった! (一兵さん)

回復プログラム 入門

★このコーナーでは、「いきなり回復プログラムにしっかり取り組むのはハードルが高い…」と感じる方向けに、「入門編」として、自分の心を書き出す練習をします。回復プログラムに既に挑戦しておられる方も、ぜひ取り組んでみてください。

コツ 綺麗に書こう、丁寧に書こうとせず、リラックスして、出てきた思いをそのまま乱雑に書き出す。
後でやろうと思わず、一行書いただけでも、今やってみる（下の枠（看板イラスト）をお使いください）。

補足 よろしければ、書いた内容を事務局にお送りくだされば幸いです（たより掲載の可能性もあるので、掲載を希望しない方は掲載不可と明記してください）。

【6月号のテーマ】

- ① 今年、私が「寂しい」と感じたことは何ですか。何故、私は「寂しい」と感じたのでしょうか。
- ② 私は「寂しい」と感じやすい方でしょうか（度々「寂しい」と感じますか）。どんなときに「寂しい」と感じやすいでしょうか。
- ③ ②での回答について、その原因をどう考えますか。

①

②

③

ご支援 本当にありがとうございます！

4月16日～5月15日の寄付金

合計：305,760円

（内 愛のプリズム宣教基金：16,500円）

お知らせ・編集後記

お読みくださり有難うございます！今月号では、若干文字を大きくし、それに伴ってレイアウトも少し変えてみました。裏表紙のQRコードも1.5倍にしたので読み取り易くなったと思います。また、先月号で載せきれなかった「つぶやき！」と「回復プログラム入門」が復活しました！（ぎゅうぎゅうですが…）

★『My Bible』等、マザーハウスで定期郵送している冊子でないものは、ご希望を頂いても、残念ながら編集局では対応できませんので、フランススコ事業部をご利用ください。★寄贈の聖書が欲しい方は、①新品ではないことをご了承の上、②郵送料800円分の現金書留または切手を、「聖書希望」と明記したお手紙と一緒に送りください。

それでは、来月号もお楽しみに！

編集局

行事予定

▼6/20 14:00～

國學院大學法学部のゼミに参加

▼6/22 13:00～

カトリック麴町教会 ヨセフホールにて、マザーハウス総会
その後、対談「隔絶から和解へ」（VIP プリズム）

▼6/27 9:00～

竹ノ塚警察署にて、被告人と面会

▼6/30 12:00～

カトリック上野教会にて、講演「人生を変える出会いの力」

▼7/4 10:55～

埼玉工業大学にて、講義

▼7/5 13:00～

早稲田大学商学部にて、講義

▼7/7 10:00～

カトリック田園調布教会バザーにて、マリアコーヒー販売

▼7/8 16:30～

カトリック麴町教会 岐部ホールにて、APS 研究会

▼7/9 18:00～

マリアカフェにて、当事者ミーティング（当事者のみ参加）

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

* 製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX：03-6659-5270

メール：maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格：粉200g または 豆200g …… 900円＋税

カフェドリップ10g (1回分) … 100円＋税



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会
／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会
／カトリック菊名教会／カトリック中和田教会／カトリック新子安
教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会（平和環境部）
／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利
教会／カトリック神田教会／カトリック松戸教会／カトリック太田教会／カトリック大分
教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック
多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／ドン・ボスコ社／クリスト・
ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺が
ありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々
は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りか
ない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア
・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

獄中POSTシリーズ

* 獄中ボランティアの方が描いた絵画や文字を、
ポストカード・封筒・便箋に印刷する企画です。

FAX：03-6659-5270

メール：motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↓)



入手方法：講演会等での販売のほか、ご注文を受け付けております。

☆ポストカード／封筒は1枚300円、便箋は10枚300円

☆ホームページにカタログ（随時更新）がございます。

☆収益は全て、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。

また、ご寄付・ご支援くださった方に、デザイン等ランダムで
お贈りしております。

マザーハウスたより6月号

2019年6月15日発行

発行責任者：五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook

↑ 理事長奥さんブログ

↑ MLP問合せ

ラウレンシオ（便利屋業）

* 元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、
掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

TEL：080-4614-8508

FAX：03-6659-5270

メール：lawrance@motherhouse-jp.org (QR →)



古本募金（きしゃぼん）

* 書籍やDVDを下記送り先にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先：〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぼん係

（マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください）

TEL：0120-29-7000

カウンセリング

* 当事者やご家族の方を対象に、専門家がカウンセリングを行います。

※価格は別途かかります。

メール：counseling@motherhouse-jp.org (QR →)



お問合せ

いつもありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ：「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



ご支援

☆正会員（一口5000円／年） ☆賛助会員（一口3000円）

☆社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

→お振込み口座名：

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先：

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL：03-6659-2110)

